



第129号
(発行所)
 真宗大谷派
 松岡山 廣讚寺
 中村区城屋敷町3-30
 TEL (052) 411-5301
 FAX (052) 411-5341
 携帯 090-1568-4623
<E-mail>
 matsuoaka@kosanji.or.jp

近い未来

高齢者の自動車事故が多いということで、高齢者の免許更新が年々厳しくなってきた。早い人だと70歳くらいで免許を返上する人もいる。そう考えると私の自動車を運転できる期間もこの先そんなに長くはない。

やがては運転免許証を返上し、その後しばらくは自転車で移動するだろう。しかし自転車だって高齢になり不安定な運転をするようになれば家族から止められるであろう。

そうすると次は徒歩だ。若いころに自動車に乗ってばかりいた足だからすぐに杖が必要になるだろう。杖の次は、一人で歩くのは危ないということできき添い

の人が必要になる。

その頃には旅行に行くことも難儀になり、外出も控えるようになる。一日を部屋で過ごす日が多くなる。

家族がデーターサービスを勧めるようになる。ショートステイにも行くようになるだろう。その後も寿命があるならば老人施設に入るだろう。老人施設での生活が長くなれば人々から忘れられていくだろう。

少子高齢化はこれからもっとひどくなる。国の財政だってよくないだろう。今のように入居できるかわからない。

これはずっと先の話ではなく、たかだか数十年後のことだ。



阿弥陀の国のお話

伊藤和美

廣讚寺新同朋会が結成されて二十年目にあたる平成九年に同朋会二十年のあゆみ誌を作成した。

その中に「寸劇 阿弥陀の国」という記事を掲載した。その目的は同朋会員に阿弥陀経とはどんなことが説かれているかを少しでもお役に立てればと思ったからである。阿弥陀経の内容はなかなか難しい。そこで寸劇でやれば少しわかりやすくなるのではないかと思いい、お釈迦さまをはじめ弟子や菩薩、天人などの役を同朋会のメンバーに割り当てた。お釈迦さまは亮昭住職で当時の同朋会長は一番弟子の舍利弗だった。ナレーションは私です。その他、舞台、進行、音響などの係も作った。

ここで阿弥陀の国のお話が始まるのである。しかし、いざ寸劇を始めようとしたら住職ができないと言われ、それで実演されることはなかった。

今回はその時のシナリオを少しだけ紹介する。

開幕

(舞台)

樹が多く茂り、大邸宅の庭。池の横にある大きな石にお釈迦さまが座ってみえる。その石の前に弟子、菩薩、天人、千二百人が座っている。

(ナレーション)

ここはインドの舎衛国、祇園精舎です。そこでお釈迦様が一番前に座っている舍利弗に話されます。

(お釈迦さま)

舍利弗よ、ここから西方十万億土むこうのところには極楽がある。そこに阿弥陀仏がおられ、いつもお説教をされている。

このように寸劇は始まるのである。

報恩講精進落とし

報恩講の最後の日、御満座（十一月三日）の説教が終わった後に精進落としを行いました。一人会費は千円。午後三時過ぎから。



今年初めて実施したのですが五十名以上でにぎやかに終えることができました。精進落としの席ではお酒もあり、皆さん日ごろの思いを語っておられました。また来年の報恩講でも、この精進落としを行いたいと思いますのでぜひご参加ください。



平成三十一年(2019年)年忌表

年回	年回にあたる没年
一周忌	平成30年(2018年)
三回忌	平成29年(2017年)
七回忌	平成25年(2013年)
十三回忌	平成19年(2007年)
十七回忌	平成15年(2003年)
二十三回忌	平成9年(1997年)
二十七回忌	平成5年(1993年)
三十三回忌	昭和62年(1987年)
三十七回忌	昭和58年(1983年)
四十三回忌	昭和52年(1977年)
四十七回忌	昭和48年(1973年)
五十回忌	昭和45年(1970年)

行事予定

十二月八日(土) 七時半 同朋委員会・例会
(役員は七時)

十九日(水) 二時～四時 学習会

二十八日(金) 十時 二十八日講・女人講

三十一日(月) 三時 歳末勤行

十一時半～十二時半まで 除夜

一月一日(祝) 十時 修正会

十二日(土) 七時半 同朋委員会・例会
(役員は七時)

十九日(土) 二時～四時 学習会

二十八日(月) 十時 二十八日講・女人講

【20組 行事予定】

十二月十五日(土) 十一時半～十五時

東別院報恩講

お勤め稽古の後、

外陣で助音につきます

一月二十七日(日) 五時 ご命日のつどい

新年会